

授業科目	衛生予防薬学特論 Preventive Health Care			担当教員	小林 秀光、長岡 寛明、 小川 由起子、相田 美和		
展開方法	講義	単位数	2単位	開講年次・時期	1-3年/後期	必修・選択	選択
授業のねらい							
1) 環境保健学に関する専門的な知識や技術を社会生活の場に置き換えて考えることができる。 2) 予防薬学としての環境保健学を理解し、地球規模・大気環境・水環境・室内環境についての改善を述べるができる。 3) 人の健康保持・向上に貢献できる。 4) 環境に起因する感染症等についての対策を説明することができる。 5) 食品成分のもつ生理機能等について、それらの科学的特徴と生理刺激作用及び生体調整機能について説明することができる。 6) 栄養機能食品及び特定保健用食品としての可能性について議論できる。							
観点	学生の授業における到達目標			評価手段・方法	評価比率		
関心・意欲 ・態度	人の健康保持・向上に貢献できる。			・発表・討議	50%		
思考・判断	解決策や可能性について提案できる。			・レポート	20%		
技能・表現							
知識・理解	・乳酸菌及びその関連物質の生理刺激作用について理解し、説明できる。 ・虫夏草及びその関連物質の生理刺激作用・生体調整機能について理解し、説明できる。 ・嗜好飲料を中心にそれらの生理刺激作用について理解し、説明できる。 ・生活環境と人の健康について理解し、説明できる。			・レポート	30%		
出席						受験要件	
合計						100%	
評価基準および評価手段・方法の補足説明							
レポート 50%(思考・判断：20%、知識・理解：30%)及び発表・討議の内容 50%で評価する。							
授業の概要							
薬剤師が衛生、疾病予防、健康増進において積極的役割を演じるためには、薬学・医学を深く理解し、環境やライフスタイルの生体影響、および医薬品、OTC、機能的食品、サプリメント、食事の総合管理等に関する科学的知識など多面的能力を持つ薬剤師の育成が不可欠である。本特論では、公衆衛生学的及び機能的食品学的見地から、①生活環境・生活様式と人の健康との関わり、②食品成分のもつ生体調整機能について解説を行うとともに討論して知見を深める。得られた知識を活かして、健康を考慮した生活環境及び生活様式の改善を提案でき、人の健康保持・向上にますます貢献できるように薬剤師研究者になることを目標とする。							
教科書・参考書							
教科書：なし 参考書：必要に応じて資料を配布							
授業外における学修及び学生に期待すること							
配布資料を読み、当該科目の受講の準備をしておくこと。当該科目に関連する日本語並びに英語の論文を読む習慣をつけること。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	生活環境と人の健康について理解する	(小林) 人の健康に重要な生活環境および健康に関する諸問題について学ぶ。	予習：衛生、疾病予防、健康増進において積極的役割を調査 復習：授業に関するまとめ
2	化学物質の環境内動態と地球規模の環境問題を理解する	(小林) 化学物質の環境内動態が地球規模の環境にどのように影響を与えるのかを討議する。	予習：化学物質の環境内動態調査 復習：授業に関するまとめ
3	最近の水環境問題について討議する	(小林) 水資源の深刻化を理解し、世界規模での状況を把握し解決策を考察する。	予習：水環境問題を調査する 復習：授業に関するまとめ
4	大気汚染の現状と健康障害について発表・討議する	(小林) 大気汚染で問題となっている物質 (PM2.5 など) の現状と健康影響の理解を深める。	予習：大気汚染で問題となっている物質 (PM2.5 など) の調査 復習：授業に関するまとめ
5	悪臭物質測定の実状と臭気判定士の役割について理解する	(小林) 悪臭物質測定の実状を把握して、おいを官能的に評価する方法を学ぶ。	予習：悪臭物質測定の実状の調査 復習：授業に関するまとめ
6	室内空気の汚染と健康について理解する	(小林) 室内空気の汚染原因物質と健康影響について理解する。	予習：室内空気の汚染原因物質 復習：授業に関するまとめ
7	職場環境からの要因と疾病防止対策を理解する	(相田) 職場環境からの疾病の要因を挙げ、どのような疾病防止対策があるかを理解する。	予習：職場環境の疾病要因の調査 復習：授業に関するまとめ
8	環境に起因する感染症とその対策について理解する	(小林) 物理的・化学的環境要因が、感染症の発生に大きく影響することを理解し、どのような室内(施設内)環境が感染症予防に有効かを考察する。	予習：微生物の増殖に影響を及ぼす物理的・化学的環境要因を調査 復習：授業に関するまとめ
9	乳酸菌及びその関連物質の生理刺激作用について理解する	(小川) 乳酸菌の種類・特性、特に人に常在する乳酸菌の働きについて考察する。	予習：動植物に常在する乳酸菌の種類・特性について調査 復習：授業に関するまとめ
10	乳酸菌及びその関連物質の生体調整機能について討議する	(小川) プロバイオティクス、プレバイオティクス、およびバイオジェニクスの予防薬学的意義について考察する。	予習：プロバイオティクス、プレバイオティクス、およびバイオジェニクスに関する調査 復習：授業に関するまとめ
11	冬虫夏草及びその関連物質の生理刺激作用について理解する	(小林) 漢方薬・冬虫夏草の効能に関する調査内容を発表し、これまで知られている生理刺激成分について理解する。	予習：漢方薬・冬虫夏草の生体、分布、効能について調査 復習：授業に関するまとめ
12	冬虫夏草及びその関連物質の生体調整機能について討議する	(小林) 漢方薬・冬虫夏草の効能に基づく未知の機能成分について考察し、創薬の可能性について討議する。	予習：冬虫夏草の生体活性成分に関する文献調査 復習：授業に関するまとめ
13	特定保健用食品の審査及び許可に関する制度について討議する	(長岡) 特定保健用食品の審査及び許可に関する制度について考察し、それらの意義について討議する。	予習：特定保健用食品の審査及び許可に関する制度について調査 復習：授業に関するまとめ
14	緑茶、紅茶、ウーロン茶、コーヒー、ココアなど嗜好飲料を中心にそれらの生理刺激作用について理解する	(長岡) 嗜好飲料等についての生理刺激作用について、考察し、討議する。	予習：嗜好飲料等についての生理刺激作用について調査 復習：授業に関するまとめ
15	緑茶、紅茶、ウーロン茶、コーヒー、ココアなど嗜好飲料を中心にそれらの生体調整機能について討議する	(長岡) 嗜好飲料等についての生体調整機能について、考察し、討議する。	予習：嗜好飲料等についての生体調整機能について調査 復習：授業に関するまとめ